

平成18年9月8日  
消防庁

様々な条件下での救急救命処置の生存率への効果に関して  
新たな統計調査様式を用いた結果報告（暫定）  
～「ウツタイン様式調査オンライン処理システム」平成17年中登録データ概要～

総務省消防庁では、平成17年1月から、心肺停止傷病者の救急搬送記録を新たな統計調査様式である「ウツタイン様式」に基づき、オンラインシステムで収集を開始しています。

今般、平成17年中の暫定的な結果が集計され、一般市民により心肺停止の時点が目撃された心原性的心肺停止例においては、

救急隊員の心肺蘇生の開始時点が早期であるほど1ヶ月後の生存率が向上すること（3分以内に開始で、11%の生存率）

電気ショックによる除細動をした場合の生存率は、しない場合に比べて約5.0倍であること

一般救急隊員と比較して救急救命士が応急処置をした場合の生存率は約2.8倍であること

などが分かりましたので、その概要を発表致します。

【資料】

- ・ [「ウツタイン様式調査オンライン処理システム」の平成17年中登録データの概要](#)

(連絡先)

救急企画室救急企画係

担当：荒木課長補佐、佐々木係長  
小谷田事務官

電話：03-5253-7529（直通）

FAX：03-5253-7539